

国際教養大が担う「教育と国際化」

中嶋嶺雄氏・明石康氏・石川好氏が語る 〈上〉

県が来春の開学を予定している国際教養大学。「定員は100人で、授業はすべて英語」「学生に1年以上の海外留学を義務づける」「教員には任期制を導入し、過半数を外国人に」――などユニークな計画が並ぶ。同大は秋田県の高等教育や国際化に

どんな影響を与えるのか、何が期待できるのか。学長に就任する予定の中嶋嶺雄氏、比内町出身で元国連事務次長の明石康氏、秋田公立美術工芸短大学長の石川好氏の3人に話し合ってもらった。
(司会は山田裕紀・朝日新聞秋田支局長)

強い県民意識を土台に

――国際教養大の意義や期待されることは。

中嶋嶺雄氏 大学の学長を含め、長い間、高等教育に携わってきた。日本の大学はこのままでいいのか、といつも考えてきた。しかし、なかなか直せない。国立大学は国営企業みたいなもの。既得権を適当に分け合っていればつづれない。英語もろくに話せずに卒業証書が与えられる。日本の大学、日本の社会そのものがだめになる危機意識を持ってきた。秋田県民の税金を使って大学を作るのだから、従来にない大学を作る。一流の教員に教育をしてもらい、教養の基礎を身につけ、世界の問題を英語で論じられる人材を育成する。

石川好氏 非常に面白い構想だと思う。秋田県はパスポートを持っている人も、外国に行く人の割合も全国で最低レベル。全国の人が一番行ったことがない県も秋田だ。その一方で県

民意識の高さ、県民同士の結核は全国トップクラス。国際ということに積極的にあ

るローカルな県で、こうした大学ができるのが面白い。

明石康氏 グローバル化の時代はアイデンティティの時代でもある。強烈な県民意識、自己意識を持つた秋田こそ、国際化に耐え

うる。また異質なものと

の接触で新しいものをつくり出そうという意欲がわいてくる。日本の高等教育の立ち遅れはいかんともしがたい。古い大学を改革するのは難しい。新しい大学を少数精鋭でやっていくのは注目すべきことだ。秋田県人を教育するという狭い見

はやめて、他県の人を広く

受け入れ、切磋琢磨したら、橋や道路を造るより、将来ずっと大きな県の資産になる。

中嶋氏 県議会や県民の間で、新しい大学を作るか、作らないかで論争が起きているのは全国でも秋田だけだ。我々も緊張感の上に立っているから一生懸命にやり、良い大学ができる。

欠かせぬ地元のサポート

――反対もあったが、それで逆に話題になり県民の認知度も上がってきた。

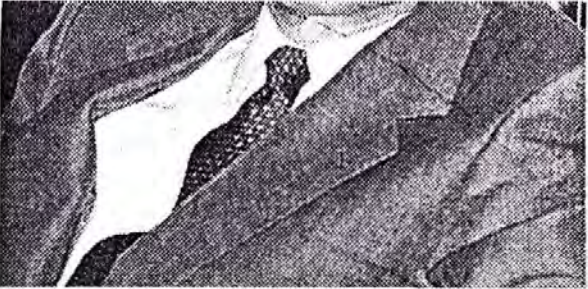
石川氏 非常に上がったと思う。秋田美術工芸短大に関しても、理解され

ば、協力態勢がすごい。開学から8年ぐらいたって教室の改修が必要になってき

てきた。秋田県民の税金を使って大学を作るのだから、従来にない大学を作る。一流の教員に教育をしてもらい、教養の基礎を身につけ、世界の問題を英語で論じられる人材を育成する。



石川好(いしかわ・よしみ)
1947年1月生まれ。伊豆大島出身。高校卒業後に移民船で渡米し農業に従事。慶応大学法学部を卒業し、再度渡米してアメリカ史などを研究。89年、農場での体験をつづった「ストロベリー・ロード」で大宅壮一ノンフィクション賞を受賞。01年4月から秋田公立美術工芸短大学長。東京都中野区在住。



明石康（あかし・やすし）
 1931年1月生まれ。比内町出身。54年、東京大学教養学部を卒業し、米バージニア大学大学院の修士課程を修了。57年、国連に入る。カンボジア問題、旧ユーゴスラビア問題担当事務総長特別代表を含め、79年から97年まで国連事務次長を務めた。日本国連学会理事長。東京都港区在住。

た。緊縮財政の中だが、市が改修費を出してくれ
 る。市議会も「学長が
 ばれ」とサポートしてく
 れる。

中嶋氏 国際教養大に
 も、現にサポート態勢がで
 きつつある。地元の財界も
 バックアップしてくれる。
 雄和町は環境もすごくい
 い。アメリカやオーストラ
 リアのような大学町ができ
 そうだ。異文化空間がで
 き、いながらにして文化交

流が可能になる。
 明石氏 中学、高校でも
 語学教育を熱心に推進して
 欲しい。大学を支える上で
 役に立つ。しかし、言葉だ
 けやってもしょうがない。
 メッセージをきちんと持つ
 ような、ものを考える学生
 を育成するのが大事。単
 なる語学学校になってはいけ
 ない。

中嶋氏 教養教育をしつ
 かりやる。例えば芸術論
 では、世界的なバイオリ
 ニストに講義をしてもら
 うなど他の大学にはない
 プログラムを用意してい
 る。本物の教養を教えら
 れる。

石川氏 美短には、24都
 道府県から学生が集まって
 いる。外に出て行くばかり
 の秋田に、県外から人が来
 るのは県のためにもなる。
 学生が外から来るのが一番
 いい。

明石氏 アメリカも各州
 に州立大学があるが、授業
 料の減免はあっても、州内
 外の比率を決めている大学
 はないのではないか。入学
 資格に差をつけるべきじゃ
 ない。

中嶋氏 県内出身者には
 入学金を低くすることなど
 を考えている。また、高校
 での留学経験者の入学枠を
 別に設ける。高校で留学す
 るのはすごくいい。外国に
 留学する人が増えないの
 は、大学入試を考えてのこ
 とだ。

石川氏 そういう生徒を
 優先的に入れるのは面白
 い。「それじゃ、私も留学
 しよう」となる。高校ぐら
 いの時に海外にでるのはい
 い。

中嶋氏 高校で1回行っ
 て、大学でもう1度行くの
 は効果的だ。高校時代はア
 ジアで、今度はアメリカと
 という経験もできる。国際教
 養大は、アメリカの大学と
 二つ学値が取れる制度にな
 る。このデュアル・ディグ
 リーは話題にはなっている
 が、まだ日本ではできてい
 ない。最初の試みになるの
 ではないか。



中嶋嶺雄（なかじま・みねお）
 1936年5月生まれ。長野県松本市出身。国際社会学者。60年、東京外国語大学卒業後、東京大学大学院を修了。社会学博士。専門は国際関係論、現代中国学。01年8月まで東京外国語大学長を務めた。アジア太平洋大学交流機構国際事務総長。国際教養大の学長に就任予定。東京都板橋区在住。

募集は県外・海外からも

— 県外へももっとPR
 すべきだが。

中嶋氏 外に向かつては
 これから本格化させる。キ
 ャンパスツアーも他県から
 の参加が多かった。基本的
 には県民の大学なのだが、

むしろ日本全国、外国もタ
 ーゲットにして学生を集め
 たい。ロシアの学生が来た
 いたという話もある。

石川氏 県内からだけで
 なく、他県からも来るよう
 な大学でないといけない

い。県の税金で作るから
 県民だけというのはよく
 ない。

中嶋氏 県内出身者の枠
 を推薦入学に設けるが、な
 るべく公平に考えないとい
 けない。